

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果報告 南越前町小・中学校の結果概要と対策

南越前町教育委員会

平成29年4月18日(火)に全国学力・学習状況調査を南越前町内の小学校6年生88名、中学校3年生97名を対象に行いました。今年度は国語と算数・数学の2教科での実施でした。調査結果については昨年までと同様、児童生徒の学習状況の改善に役立て、教育委員会や学校が保護者や地域の皆様と一体となって協力し合うことで、一層学習効果を高める目的で公表いたします。

1. 南越前町全小・中学校の学力調査の結果

平均正答率に関しては、昨年同様町内の小中学校ごとの結果を全国トップレベルの福井県及び全国と比較し、上下各2.5ポイント幅の範囲内を同程度、さらにそれを上回る範囲と下回る範囲とで表わすことで、学習状況等の各項目と比較して課題意識が持てるようにしています。

- (注1) 本町内の小中学校は小規模校が多く、平均正答率を用いて表わすと、その年度の数値が一人歩きしたり、経年変化を追うと学校の序列化につながったりするなど、学力調査の目的を逸脱してしまう恐れが大きいと考え、以下のとおり表しました。
- (注2) A問題とは、主に「知識」(身に付けておかなければいけない基礎的な知識・技能)、B問題とは「活用力」(知識や技能を実生活の中に活用する力)を問う問題のことで、
- (注3) 平均正答率とは、各児童生徒について全設問における正答数の割合を算出した値(個人の正答率)を足し合わせ、児童生徒の人数で割った値のことで、

◆小学校(4校)				◆中学校(3校)			
教科	領域	本町の結果		教科	領域	本町の結果	
		県比較	全国比較			県比較	全国比較
国語	A(知識)	同程度	同程度	国語	A(知識)	上回る	上回る
	B(活用)	下回る	同程度		B(活用)	上回る	上回る
算数	A(知識)	同程度	上回る	数学	A(知識)	上回る	上回る
	B(活用)	下回る	同程度		B(活用)	上回る	上回る

*本県と全国の平均正答率より
+2.5ポイントを上回る(上回る)
-2.5~+2.5ポイント(同程度)
-2.5ポイントを下回る(下回る)

±2.5の幅の設定理由
例年、この調査の本町の小中学校における標準偏差をみると、2.0~3.0で推移していますので、本町では±2.5の幅を判断基準としています。


2. 学力調査結果の成果と課題

各教科の調査結果は、「成果」と「課題」に分類して特徴的な傾向を示し、伸ばす面や改善すべき面を具体的に把握できるものとして示しています。

また、学力調査の結果を判断する基準は、県の平均正答率から±2.5ポイントの幅とし、2.5ポイント程度上回っているものを「成果」とし、2.5ポイント程度下回っているものを「課題」としてその中の特に顕著なものを取り上げました。

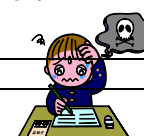
◆小学校の結果について

【国語】

＜成果がみられる＞	＜課題がみられる＞
<ul style="list-style-type: none"> 手紙の構成を理解し、後付けを書くこと 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くこと 	<ul style="list-style-type: none"> 古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら読むこと 年別漢字配当表に示されている同音異義語を正しく書くこと 取り上げた言葉や文を基に、登場人物が考えたわけをまとめて書くこと

各学校においては、これまでの「読むこと」「書くこと」を中心とした国語科としての教科指導を継続していくことが求められます。特に、書く活動を適宜授業の中に取り入れて自分の考えをまとめたり説明したりする活動を継続していく必要があると考えられます。正誤だけでなく、一人一人の誤答の状況を詳しく見ることで、つまずきの原因を分析し学校全体で学習指導の改善・充実を図ることが必要です。

【算数】

＜成果がみられる＞	＜課題がみられる＞
<ul style="list-style-type: none"> 計算の技能 2つの量の関係を表している図を判断すること 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の性質を理解すること 数量の関係を数直線に表すこと 割合の意味を理解し、グラフを選ぶこと 

学習指導においては、様々な式について、演算や数値の意味について考える活動が重要になってきます。立式するだけでなく、なぜそのような演算を行ったのかを考える場面を設定していくことが必要です。また、問題文を基に、様々な情報を整理して図に表すことも大切です。割合に関しては継続的に課題となっ

ており、基準量と比較量の関係について理解させる指導の工夫が求められます。国語同様、正誤だけでなく、つまずきの原因を分析し、学校全体で組織的・継続的な取り組みを行い、学習指導の改善・充実を図ることが必要であると考えます。

◆中学校の結果について
【国語】



＜成果がみられる＞	＜課題がみられる＞
<ul style="list-style-type: none"> ・話すための材料を人との交流を通して集めること ・集めた材料を整理して文章を構成すること ・楷書と行書との違いを理解すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉との違いを理解すること ・文脈に即して漢字を正しく書こと

「読むこと」「書くこと」を中心とした国語科としての教科指導を継続していくことが求められます。特に、書く活動と話す活動をバランスよく授業に取り入れ、意見を交流することで自分の考えを発展させたり改めたりする活動を継続していく必要があると考えられます。

【数学】

＜成果がみられる＞	＜課題がみられる＞
<ul style="list-style-type: none"> ・計算の技能 ・扇形の弧の長さを求めること ・問題解決の方法を数学的に説明すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・分数の乗法の計算



数学用語を正しく理解し、それらを用いて自分の考えを論理的に表現していくことは重要です。説明することの指導においても、記述された内容を重視し、身に付けた数学用語を正しく用いて論理的に説明をする経験を継続していくことが必要不可欠であると考えます。

3. 学習状況調査結果

学習状況調査の結果は「良好な点」と「課題点」に分類し、児童生徒の自尊感情や生活習慣、規範意識、学習習慣などの項目を国や県の様子とも照らし合わせながら比較しました。分類の基準は、『2. 学力調査結果』と同様に県の平均とし、上回っている範囲のものを「良好な点」、下回っている範囲のものを「課題点」としました。

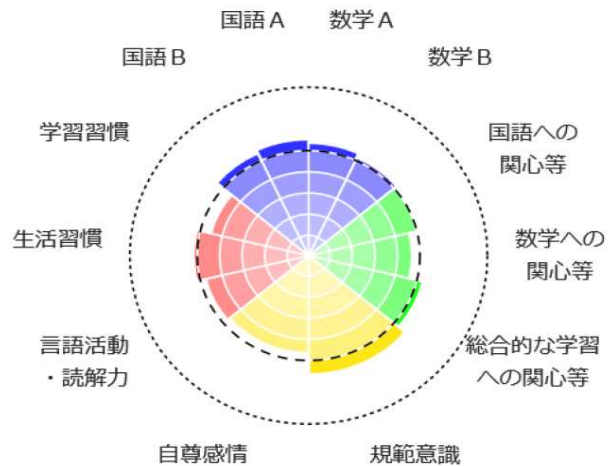
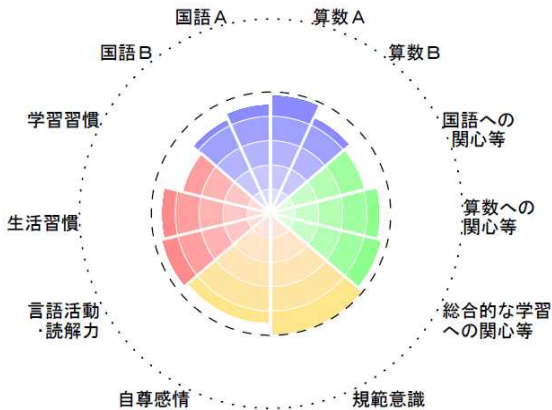
(注資料の外側の点線は、見やすさという観点で引いたものであり、何らかの基準を示すものではありません。)

＜資料1；南越前町内小学校＞ 【平成29年度】

＜資料2；南越前町内中学校＞ 【平成29年度】

児童質問紙（福井県基準）

学校質問紙（福井県）



＜資料1より＞

○小学生は算数Aで学力の定着がみられる。

▼生活習慣や自尊感情といった部分が県を下回っている。

基本的な生活習慣の定着については、家庭との連携が不可欠だと思います。また、自尊感情を育てるには、道徳の授業や特別活動、児童会活動、学校行事などのいろいろな場面で、子どもたちが達成感を感じられるような手立てを考えること、また、子どもたちに企画・運営を任せることで自信を付けさせるような機会を増やしていくことが必要だと考えます。

＜資料2より＞

○中学校では、全ての教科において学力は定着している。

○学習への関心の高さが感じられる。

○規範意識も高く、充実した学校生活を送っていることが伺える。

中学校では、全ての教科において学力は定着しており、学習への関心の高さが感じられます。また、規範意識も高く、充実した学校生活を送っていることが伺えます。このような特徴をみるために、学習状況調査は、学習習慣・生活習慣・言語活動(読解力)・自尊感情・規範意識等の各項目の状況がわかるような質問になっています。その結果をもとに、町内の小中学校の児童生徒の「良好な点」と「課題点」を次のようにまとめました。



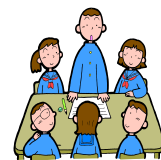
◆小学校

良好な点	課題点
<input type="checkbox"/> 朝食を毎日食べている <input type="checkbox"/> テレビを観る時間やゲームの時間を決めている <input type="checkbox"/> みんなで協力してやり遂げられるとうれしく感じる <input type="checkbox"/> 課題解決学習によく取り組んでいる <input type="checkbox"/> 新聞を読んでいる <input type="checkbox"/> 友だちとの約束を守っている <input type="checkbox"/> 住んでいる地域の行事に参加している <input type="checkbox"/> 授業参観や運動会に家の人がよく来る	<input checked="" type="checkbox"/> 自分には良いところが多いと感じる子が多い <input checked="" type="checkbox"/> 人の役に立つ人間になりたいと思う子が少ない <input checked="" type="checkbox"/> 学校や地域などでボランティア活動に参加していない <input checked="" type="checkbox"/> 平日の家庭学習での時間が少ない <input checked="" type="checkbox"/> 家で、計画的に学習をしていない <input checked="" type="checkbox"/> 家で、予習や復習をしない <input checked="" type="checkbox"/> 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文をかくことが苦手 <input checked="" type="checkbox"/> 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが苦手



◆中学校

良好な点	課題点
<input type="checkbox"/> 朝食を毎日食べている <input type="checkbox"/> 学校の授業以外に、1日あたり1時間以上勉強している <input type="checkbox"/> 学校が休みの日は、1日あたり2時間以上勉強している <input type="checkbox"/> 家で、自分で計画を立てて学習している <input type="checkbox"/> 授業では、よく発言する <input type="checkbox"/> 新聞を読んでいる <input type="checkbox"/> 住んでいる地域の行事に参加している <input type="checkbox"/> 地域社会などでボランティア活動に参加している <input type="checkbox"/> 部活動に積極的に参加している <input type="checkbox"/> 授業参観や運動会に家の人がよく来る	<input checked="" type="checkbox"/> 難しいことに対し、失敗を恐れて挑戦できない <input checked="" type="checkbox"/> 自分には良いところが多いと感じる子が多い <input checked="" type="checkbox"/> 将来の夢や希望が持てない <input checked="" type="checkbox"/> 友だちの前で自分の考えや意見を発表することが苦手 <input checked="" type="checkbox"/> 学校で、好きな授業が少ない <input checked="" type="checkbox"/> 家で、授業の予習や復習をしない <input checked="" type="checkbox"/> 読書の時間が短い <input checked="" type="checkbox"/> 長い文章を書くことが苦手 <input checked="" type="checkbox"/> 家で手伝いをすることが少ない



これらの結果を、今後の学校生活で児童生徒のどの面に注目して指導改善してよいかを検討する資料として生かしていきます。

4. 学力調査と学習状況調査の相関関係

学力調査と学習状況調査の結果から分かる相関関係については、小学校・中学校を問わず次のようなことが指摘できます。

＜「当てはまる」と答えた児童生徒と、「当てはまらない」と答えた児童生徒の平均正答率の差＞	
【家庭では】	
<input type="checkbox"/> 朝食を毎日食べている。	+18.3% ｲﾄ
<input type="checkbox"/> 普段学校の授業以外に1時間以上勉強している。	+12.0% ｲﾄ
<input type="checkbox"/> 家で、計画を立てて勉強している。	+ 5.3% ｲﾄ
<input type="checkbox"/> テレビを観る時間やゲームをする時間についてルールを決めている。	+ 1.1% ｲﾄ
【学校では】	
<input type="checkbox"/> 学校へ行くのは楽しい。	+ 3.4% ｲﾄ
<input type="checkbox"/> 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。	+ 2.8% ｲﾄ
<input type="checkbox"/> 資料や文章、話の組み立てを工夫して発表できる。	+ 3.3% ｲﾄ
【地域では】	
<input type="checkbox"/> 今住んでいる地域の行事に参加している。	+ 0.2% ｲﾄ
<input type="checkbox"/> 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある。	+ 6.6% ｲﾄ

◆3と4から改善を要すること◆

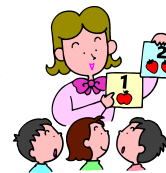
- * 規則正しい生活習慣を身に付けることはもとより、毎日、計画的・継続的に学習に取り組む心構えや自分から積極的に学習や活動に関わろうとする姿勢が学力にも大きく影響してきます。
特に、「朝食をしっかり食べている子は、学力も高い」という傾向が見られます。毎朝、しっかり食事を摂って登校できるようご家庭でもご協力をお願いします。
- * 日々の授業では、自らの意見の理由を述べたり考え方の説明をしたりする活動を意図的に取り入れていくことで文章を構成したり書いたりする力が身に付いていきます。
各学校での言語活動やコミュニケーション能力の向上に向けた取り組みを検証し、自分を表現することに自信を持たせることで、他者と良い関わりが持てて「学ぶ意欲」の高い児童生徒を増やしていく。また、「自分で計画を立てて勉強ができるかどうか」という点が、学力を伸ばすという面において大きな影響があるようです。
- * 日頃から地域や家庭・学校で大人が温かく関わり、子どもたちの不足している力をいかに伸ばしてあげられるかを考えていくことも必要だと思います。

5. 今後の対策

(1) 学校での取り組み

学校では、学力調査や学習状況調査の結果から見えてきた課題点を克服する授業、個に応じた授業や指導を学校教育の全般を通して行うことが大切です。このようなことから、各校の調査結果の「良好な点」を伸ばし、「課題点」を克服する指導を展開するために、次の点に力を入れていきます。

- ① 教科指導や総合・学活等で「児童生徒相互の学び合い」を意識した、児童生徒主体の授業を展開する。
- ② 朝学習、教科学習など、基礎・基本を徹底する時間を充実する。
- ③ 教育活動の場で、「新聞の活用（N I E）」を推進するなど、情報を活用する力を高める。
- ④ 家庭学習の内容など、個に応じた課題の学習を充実する。
- ⑤ 家庭や地域と連携した「道徳教育」を推進し、児童生徒の道徳性を高める。



(2) ご家庭にお願いしたいこと

家庭での課題が、「家庭での学習時間・読書の時間が少ない」「自分で計画を立てて勉強できていない」「お手伝いをしている子が少ない」等の状況であることから、学校と家庭が連携し、次のように家庭学習の充実を目指しましょう。

- ①規則正しい生活習慣を身につける
 - ・「早寝・早起き・朝ご飯」を習慣にし、テレビやゲーム、スマホはルールを守って使うようにする。
 - ・積極的に家事等に関わらせることで、「お手伝い」の意識を高める。
- ②家庭学習に、「調べ学習」「繰り返し学習」「読書」などの時間を設け、学習習慣が身につくようにする。
 - ・「調べ学習」とは；学校での学習課題や苦しい教科の予習などを、調べてノートなどにまとめる学習のこと。
 - ・「繰り返し学習」とは；テストの間違い箇所や計算や漢字の練習を反復する学習のこと。
 - ・ここでの「読書」とは；読み物や調べ学習等の資料本を活用することによる読書のこと。
- ③家庭学習の時間は、自分で計画を立て、毎日継続的に一定時間を確保できるようにする。
 - ・個々の実情に応じ、「読書」や「新聞を読む」時間も盛り込む。



※積極的に各ご家庭で、関わり合いを持って下さい。

(3) 地域にお願いしたいこと

学習状況調査の結果からも指摘できる地域の中での課題が、「地域や社会に関心がない」「地域の大人との関わりが少ない」などがあるため、今一度のご理解とご協力をお願いします。

- ①普段から地区の子どもたちに「おはよう」、「気をつけて行ってらっしゃい」、「おかえり」、「それはダメだよ」などの気軽な声かけをしましょう。
- ②地区行事を子どもたちにとって魅力あるものにしましょう。
 - ・行事の中に役割があって、人から頼りにされたり、自分が役に立っているという自覚が持てるような行事になるよう、「子どもたちの居場所づくり」をお願いします。
 - ・集落子ども会の行事には、小学生のみならず中学生にも積極的に参加するように働きかけて下さい。
- ③ふるさとに愛着を持てるよう、地域の行事に参加し、ふるさとの良さや「地域の価値」を見つけられるように、行事の中で「楽しかった」「おいしかった」「感激した」など、地域の価値を見いだせる体験活動の企画などをよろしくお願いします。

